

一 野村工作ニ關シ岩畔ヨリ詳細電アリ
(武藤局長ノ要求アリタルニ對シ)

二 日支直接交渉ニ難色アリ

三 本諒解案ニ依リ米々戰ヲ阻止シ得ズ

四 米々日本ノ樞軸離脱ヲネラヒアリ

五 了解案ノ成否ハ五分五分ナリ

ニ 岩畔ノ意見見具申
ハ 本案ヲ成立セシムルヲ要ス然ラザレバ日米ハ破局
ニ入ルシ

三 兩國民ノ心理ヲ太平洋ノ平和ニ轉向セシムベシ

四 本案成立ニ依リ日本ノ樞軸堅持、米々戰

阻止ハ不可能ナルベシ

一 帝國ハ南進ヲ準備スベシ

二 近ク大使ヨリ正式返電アルベク之ニ對スル態度ニ

關シ國論沸騰スベシト次長夏慶ノ

支那事變處理ノ爲多少ノ樞軸離反ニハ目ヲ

ツツク成立スベシノ論者ト樞軸堅持ニ邁進

スベシノ論者ト次長前者ノ案ナリ

四 帝國ハ目下(一)ニ支那事變處理ニ(二)ニ事變

處理、(三)ニ處理、右次長案ニ依ルヲ至當ト

スルヤ

五 朝板西武官ヨリ獨シ開戦ハ確實ナリ
(天島大使トクンペン「ロワトラ」ト會日談ノ空

日 月 年 空欄

氣ヨリ) 國家決定ニヌカリ勿レト云フ

次長獨日本ニ相談ナリト開戦怪シカラヌ
日本中主ヲ守ルモ宜シイト云フ

六 前項ニヨリ獨^ニ開戦ニ伴フ帝國團策ノ大

綱ヲ審議ス

第二課案第二部案アリタルモ當班案ヲ基
礎トシテ一案成ル

七 連絡懇談會開ク

重要議題ニ觸レズ(海軍大臣 總長 次席)

右終了後 兩軍務局長 外相ト會談

外相ハシシガホ^ル攻略ノ企圖ナキ限リ 軍事
協定ハ^テモヤラスト云フ

日 月 年 空欄

依ツテ專ラ外相說得ノ手段トシテ提案理由ニ
一 軍事協定締結ニ依リ 英米起ツ場合
ンガホ^ル攻略ヲ斷乎ヤルト云フコトヲ挿入
シテハ如何ノ案出ヅ 海軍ニ一應アタルコトス